

住人十色

第63回



◎麓川の堰を描いた作品と旭日双光章の前で。

地域や福祉の向上に尽くした半生 人生の集大成に「旭日双光章」

としお
和田 利百さん(88) 内子15

88歳の誕生日に「旭日双光章」を受章した和田利百さん。愛媛県傷痍軍人会連合会の理事を50年以上務め、特に愛媛県下の戦傷病者および遺族の福祉向上、更生援護に尽力。愛媛県身体障害者連合役員などを歴任しながら、昭和62年からは内子町議会議員として教育の充実や社会福祉の向上に力を注ぎました。

和田さんは戦争中にけがを負い、それが原因で足が曲がらない障がいがあります。「人生はいろいろある。障がいのある人も、つらい経験をした人も、人生をあらためたらいけない。生きるということ、元々努力がいること」と自身の人生を振り返りながら語る和田さん。戦争で生き残った意味や責任について、いつも考えているそうです。

「義」を大切にする和田さんは、多くの人から親しまれています。趣味の絵画では6月に個展を開き、受章と米寿と個展の3つが重なった喜びを、大勢の仲間が祝福しました。和田さんは「みんなが自分のことのように喜んでくれた。幸せなこと」とにっこり。「これからは内子町の昔の出来事や自分が経験したことなどを、文字にして残していきたい」と新たな地域貢献に意欲を見せていました。

編集 幸記

▽今月は特に、多くの人の話を聞くことができました。取材は大変ですが、子どもたちや人生の先輩たちの活躍には、元気をもらえます。これからもっと暑くなりますが、頑張ります。(裕)

▽今月は担当している統計調査で、きりぎり舞いの月となりました。ちなみに、この調査結果。地方へ配分される地方消費税の算定基礎となります。回答率の低い沖縄県は、同じ人口規模の青森県より50億も配分が少なかったという例も。驚きですよね。(桂)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

